

共用試験

第5回法曹養成制度検討会議

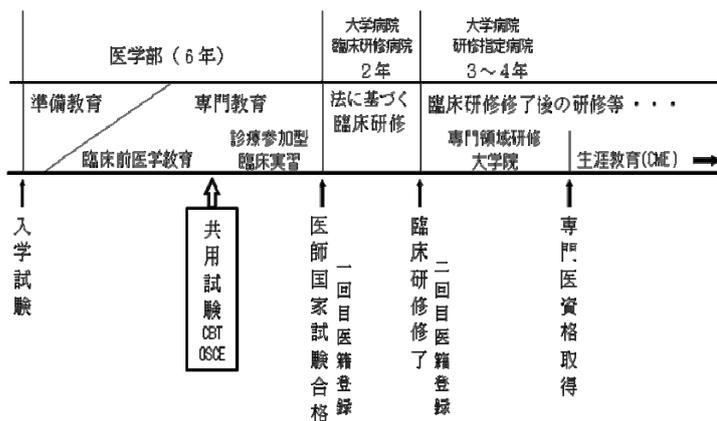
平成24年12月18日

有識者委員 国分正一

主旨：

- 医師の養成は国民の命と健康を守るために不可欠な国家的・社会的に重要な事業
- 国際的にも遜色のない医学教育の質を確保する
- 医学教育改革の一環として、臨床実習を見学型から欧米で広く行われている診療参加型に改善
- 全国共通の評価基準により、医師免許証のない医学生の臨床実習への参加が許されるのに必要不可欠な知識・技能・態度が備わっていることを社会に対して保証
- 各大学の自己評価
- 進級判定、学生の自己評価

医師の卒前教育・卒後研修・生涯教育



導入までの経緯：

- *平成13年3月 文部科学省が「医学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン」を提示（平成19年12月改訂、平成23年3月再改訂）
 - ◎各校のカリキュラム：2/3程度をコア・カリキュラムに、
残り1/3を各校の教育理念や特色に基づいた内容
- *平成14年から4回のトライアル
- *平成17年12月から開始

実施概要：

- *社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構（理事長 高久史麿）が主管
- *全80医科大学・大学医学部が参加
 - 医学部6年のうちの臨床実習に入る前、一般に4年生の終盤に行われる
- *コンピューターを用いた客観試験（Computer Based Testing, CBT）と客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination, OSCE）から成る
- *各大学で実施する他の評価の結果と組み合わせることによって総合的な評価が行われ、進級の適否が判定されている

CBT :

- * 知識の総合的理解度を評価
- * モデル・コア・カリキュラム（通称コアカリ）に則り基礎から臨床の幅広い分野から
- * 蓄積されたプール問題から受験生ごとに異なる試験問題がランダムに出題
- * 平均難易度に差がないように調整される
- * 正答率に応じて6段階評価
- * 全国成績が公開され、各校の成績と学生個人の成績を返却
学生が学習の到達程度を知ることができる
- * CBT の成績と医師国家試験の関係: 相関関係ありといわれている

OSCE :

- * 医療面接、胸部診察、呼吸音聴診、神経診察、救急、頭頸部診察、生命兆候(vital signs)等のステーションにおける診察能力と態度を評価
- * 模擬患者の協力
- * 標準的な診察手技を示す教育用 DVD の作成、配布
- * 自校からの評価者と他校からの認定評価者の2名がマニュアルに基づき各ステーション毎に評価する
- * 6点満点（4点：合格レベル（最低要求レベルよりは上））
4～6点が約90%の学生